

令和5年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

佐世保市立相浦西小学校大崎分校

「みんなが楽しい学校」の創造そして幸せへ

- (1) マナーアップに努める
- (2) 学力アップに努める
- (3) 体カアップに努める

所在地 佐世保市大湊町467番地

校長 岩田 美輝

児童数 54名(学級数 5)



1 目的

- (1) 地域の特色を生かした体験活動を通して、大崎地区への関心・理解を深め、豊かな情操の育成と心の教育の充実を図る。
- (2) 本校(相浦西小学校)を始め他校との交流や地域等との交流活動をより多く取り入れることにより、自己表現力やコミュニケーション能力を高める。
- (3) 一人一人の実態を把握し、個に応じた指導を通して、すべての児童に分かる主体的・対話的な授業を展開し、基礎基本の定着を図るとともに、学習習慣の確立をめざす。

2 主な取組内容

- 通年 縦割り活動・縦割り掃除を通じた児童の達成感や自己有用感の育成
国語科を中心とした主体的・対話的に学びを深める児童の育成
基礎学力向上のためのスキルアップ学習(全学年 まなびタイム)
ポカポカの木(いいところ探し)を通じた思いやりの心の育成
- 4月 花の苗植え(全学年 縦割り活動)
楽しい学校を意識した歓迎集会・歓迎遠足(全学年)
- 5月 黒島小中学校との宿泊体験学習(5・6年)
- 6月 稚魚放流(全学年 保護者 地域)
大崎探検隊(3年)学校周辺にある教会や漁協等の方と交流を深める
学校開放週間を通して保護者、地域の方々と交流を深める
- 9月 運動会を通して大崎保育園、地域の方々と交流を深める(全学年)
- 10月 社会科見学(3年)を通して本校児童との交流を深める
おもちゃまつり(1年)を通して本校児童との交流を深める
ふれあいクッキングを通して家族、地域との交流を深める(全学年)
- 11月 秋の花の苗植え(全学年 縦割り活動)
スクールコンサート(全学年)
本校との交流(1年:遠足 4年:ふるさと発見学習)
- 1月 学力テスト(国語・算数)の実施(全学年)
- 2月 大崎保育園との交流(1~2年)

3 主な実践内容

○ 「ふれあいタイム」等の縦割りあそびや縦割り掃除、相浦西小学校や黒島小中学校との交流活動を通して、コミュニケーション能力の向上が見られた。また、ポカポカの木（いいところ探し）や人とのかかわりを通して、思いやりの心を育むことができた。



○ 地域の「人・もの・こと」とふれ合うことで、地域の特色や人とのかかわりの温かさを再認識し、地域に対する愛情をより深くもつことができた。充実したふるさと教育を展開できた。

○ 学力テスト等の結果を踏まえ、国語科を中心とした授業改善に取り組むことができた。校内研修を通して、全職員で共通理解し実践することができた。

○ FAX資料集やeライブラリ等のデジタル教材を活用して、語彙力や作文力等の基礎的学力の習熟を図ることができた。

○ 稚魚放流では、保護者や水産センターの方々に参加、協力をさせていただき、命や食に対する児童の考え方、感じ方を耕すことができた。また、命をみつめる強調月間と連動させることで、保護者、地域の方々の教育活動への理解が深まり、協力体制をより堅固にすることができた。



○ 児童の基本的な生活習慣の定着とタブレットの使いすぎを防止するために、保護者が生活カード（すこやかさんカード）を定期的に記入するなど、積極的に児童の生活を振り返ることができた。

○ 歓迎集会、スクールコンサート等を開催し、保護者、地域の方々を招待することで、開かれた学校づくりを推進することができた。



○ 本校とは、1～2年生が交流を2回（おもちゃまつり、遠足）3・4年生は、校外活動を通して交流ができた（社会科見学、ふるさと発見学習）。5・6年生は、黒島小中学校児童と宿泊体験学習やリモートを通して交流した。リモートでは、互いの学校のよさを伝え合ったり、宿泊体験学習の打ち合わせを行ったりした。少人数の中で生活する児童にとっては、コミュニケーション能力や思いやりの心を育むよい機会となった。



○ 花の苗植え活動やふれあい遊びの縦割り活動を継続して行ったことで、異学年の好ましい人間関係が構築され、「みんなが楽しい学校」を日常的に体感できるよい機会となった。また、高学年には活動を任せることで、自ら考えて行動する主体性が身に付いてきた。



○ 学力調査の結果を全職員で分析し、児童に身に付けさせるべき課題について共通理解を図った。校内研修を柱として、授業改善に主体的に取り組み、日々の授業の終わりに、子どもたちを賞賛することを共通実践していくことで、学ぶ楽しさを体感させることができた。eライブラリやプリント集を宿題や隙間時間に活用することで、基礎基本の学力の定着を図ることができた。

4 今後に向けて

○ 特色ある学校づくりの予算を最大限に活用しながら、様々な取組を展開したが、広報活動が不十分だった。大崎分校ならではの取組を次年度も継続しながら、HPだけではなく、他の媒体も活用して広報していきたい。

○ 分校のメリット（少人数）を生かした取組が柱となるが、本校や他団体との交流を通して、広義の表現力向上を図ることが難しかった。次年度はタブレットを活用し、遠隔を使った交流にも取り組んでいきたい。

○ コミュニティスクール1年目として、地域との連携を見直し、行事の精選、準備時間、会議時間の短縮等に取り組んできたが、まだ不十分であった。次年度は、更に取組を充実させながら働き方改革の実現を図りたい。

○ 学力向上の取組の一環で、紙媒体のFAX資料集を活用し、基礎学力の土台を築くことができた。次年度は、さらに、タブレットを最大限に活用し、授業だけではなく、家庭学習でも学びを深めさせ、学力向上を図りたい。そのため、eライブラリに加え、新たな学習ソフトを予算で購入し活用していきたい。